

市民力かわら版



サッカーのまち矢板が見えてきた！ ヴェルフェたかはら那須

新春の全国高校サッカーで矢板中央高校が栃木県勢としては24年ぶりにベスト4に進出、全国に矢板の名を広めてくれた。

その矢板中央高校に負けじとサッカーで地域を盛り上げているのが「ヴェルフェたかはら那須(旧矢板サッカークラブ)」だ。

良きライバルとして

矢板中央高校とはグラウンドを借りたり、練習試合をしたり、卒業生がチームに入会したりと関わりも深い反面、天皇杯予選など公式戦で対戦するライバルでもある。しかし、この切磋琢磨が互いの技術向上に貢献しているのかもしれない。

昨年、天皇杯県予選準決勝でその中央高校を破り天皇杯本戦に出場。一回戦は八戸大

学に勝ったものの、残念ながら二回戦でJ1の京都サンガに破れて涙をのんだ。

総合型地域スポーツクラブ

実は、この「ヴェルフェたかはら那須」というチームは、ジュニアサッカースクールなどを運営する総合型地域スポーツクラブとして設立された「NPO法人・たかはら那須スポーツクラブ」に所属するトップチーム。

地域に、子どもたちの夢や希望を共有し、一体感を持てるトップチームがある事は、サッカーで矢板を活性化させるという意味では理想的だ。

自立と信頼のために

二〇〇五年、日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の育成指定クラブ



ヴェルフェのユニフォームが青い空に映えます

となり二年間の準備期間を経てNPO法人に。情報公開のための事務処理は大変だが、あえてそうしたのは、NPOとしてしっかりやっていくという意思表示をする中で自覚が生まれ、土台がしっかりとして組織が自立していくと考えたからだ。また、NPOになった事で組織に対する信

頼度も違ってきた。営利目的の団体には開放しない施設でも使うことができないなど運営面でもかなり助かっているとのこと。

地域に貢献するスポーツクラブとして

現在市で募集している学校支援ボランティアに登録し、有資格者を派遣する事を検討。またサッカーだけでなく、バドミントン、ボクササイズ、太極拳、スキーなど地域に開かれた各種のスポーツ教室の運営も行ない、子どもから大人まで、楽しみ志向の人から競技志向の人まで、地域住民だれもが集い、年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルに応じて活動できる場を提供したいとのこと。

生活の中にスポーツを

今年からはこれらに加えて、北欧で流行しているノルディックウ

オーキングを取り入れる予定だ。これはストックを使うウオーキングで足腰の負担を軽くできるため高齢者向きのスポーツである。

ほかにフリースポール卓球や女子サッカー教室など、より地域の実情に根ざしたスポーツ教室を今後展開していく予定。

「個人が健康のために生活の中にスポーツを取り入れる事、その個人のニーズに合わせてスポーツを提供する事ができれば、スポーツでまちおこしにつながっていきます」と、理事長の大森崇由さん。



たかはら那須スポーツクラブの皆さん